

Collaboration - Directory Access シス テム管理者ガイド

解説・手引・文法・操作書

3020-3-H05-90

■ 対象製品

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E364 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E464 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H05-90

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-H05-90) Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 • Windows Server 2012 R2	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、Collaboration - Directory Access の環境設定および運用方法について説明したものです。

■ 対象読者

Collaboration - Directory Access を使用したシステムの環境を管理および運用するシステム管理者またはシステムインテグレーターを対象としています。なお、次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS (Operating System) および Web ブラウザの操作
- [ユーザ検索] ポートレットの各機能および操作 (マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」をお読みください)
- LDAP に準拠するディレクトリサーバ

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 Collaboration - Directory Access の概要

Collaboration - Directory Access の概要について説明しています。

第 2 章 Collaboration - Directory Access の環境設定

Collaboration - Directory Access の環境設定について説明しています。

第 3 章 Collaboration - Directory Access の障害対策

Collaboration - Directory Access の障害対策について説明しています。

付録 A 旧バージョンから移行する場合の作業

Collaboration - Directory Access を旧バージョンから移行する場合の作業について説明しています。

付録 B 旧バージョンとの機能の違い

旧バージョンとの機能の違い、および旧バージョンと同じ動作環境にするための設定方法の概要について説明しています。

付録 C 用語解説

Collaboration - Directory Access の用語について説明しています。

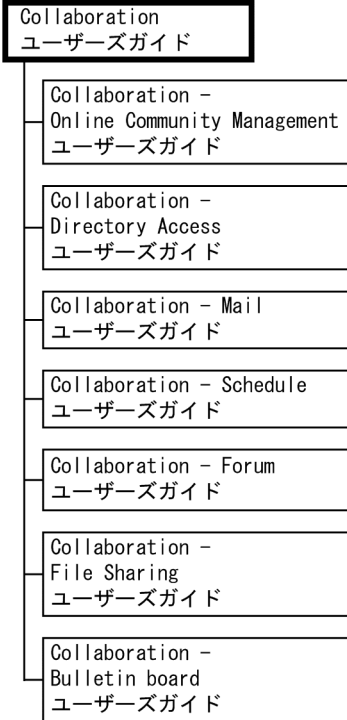
■ 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaborationがどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

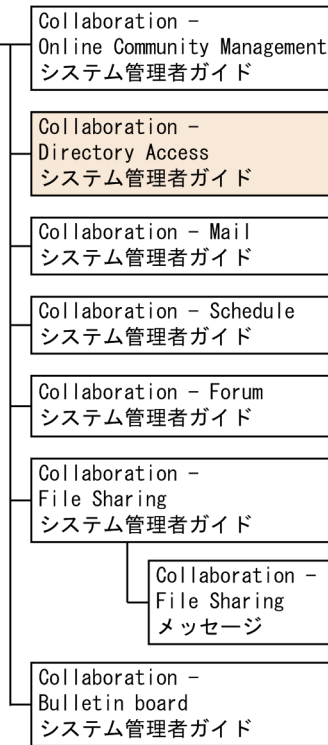


- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration
移行ガイド



(凡例)

■ : Collaboration共通、またはCollaboration全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaborationのコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration のマニュアルおよびその他の関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Collaboration ファーストステップガイド (3020-3-H02)

Collaboration 製品を初めてお使いいただく方のためのご紹介マニュアルです。Collaboration でできることや、ポートレットの基本的な使用方法について説明しています。

Collaboration ユーザーズガイド (3020-3-H22)

Collaboration の概要、ログイン・ログアウトおよび画面のレイアウト変更の操作方法について説明しています。また、トップメニュー、ナビゲーションビュー、[新着情報] ポートレット、[リンク集] ポートレットの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)

Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。

Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)

Collaboration のシステムの移行方法について説明しています。

エンドユーザ向けマニュアル

Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド (3020-3-H04)

コミュニティ管理の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド (3020-3-H06)

ユーザ検索の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Mail ユーザーズガイド (3020-3-H08)

メールの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Schedule ユーザーズガイド (3020-3-H10)

スケジュールの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Forum ユーザーズガイド (3020-3-H12)

電子会議室の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)

ファイル共有の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド (3020-3-H24)

電子掲示板の機能および操作方法について説明しています。

システム管理者向けマニュアル

Collaboration - Online Community Management システム管理者ガイド (3020-3-H03)

コミュニティ管理を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Mail システム管理者ガイド (3020-3-H07)

メールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Schedule システム管理者ガイド (3020-3-H09)

スケジュールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Forum システム管理者ガイド (3020-3-H11)

電子会議室を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)

ファイル共有を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing メッセージ (3020-3-H14)

ファイル共有のメッセージの形式、メッセージおよび対処方法について説明しています。

Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)

電子掲示板を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

その他のマニュアル

uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)

uCosminexus Portal Framework の機能およびポータルの構築方法について説明しています。

uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド (3020-3-H72)

ポータルの運用方法について説明しています。

uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)

ポートレットの開発方法および開発時に使用する API について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて次の個所をお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
Collaboration - Directory Access の概要とシステム構成について知りたい	1.1, 1.2
Collaboration - Directory Access の機能について知りたい	1.3
Collaboration - Directory Access の環境設定について知りたい	2 章
Collaboration - Directory Access の障害対策について知りたい	3 章
旧バージョンから移行する場合の作業について知りたい	付録 A
旧バージョンとの機能差, および旧バージョンと同じ動作環境にするための設定方法について知りたい	付録 B
Collaboration - Directory Access の用語について知りたい	付録 C

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称および機能を次に示す略称で表記しています。

正式名称	略称	
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-20 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-20 	Collaboration - Directory Access 01-20	Collaboration - Directory Access
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-30 	Collaboration - Directory Access 01-30	
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-32 	Collaboration - Directory Access 01-32	
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-70 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-70 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-70 	Collaboration - Directory Access 01-70	
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-82 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82 	Collaboration - Directory Access 01-82	
次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91 	Collaboration - Directory Access 01-90	
Java™	Java	
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 	Windows Server 2008 x86	

正式名称	略称
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版 	Windows Server 2008 x86
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版 	Windows Server 2008 x64
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版 	Windows Server 2008 R2
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版 	Windows Server 2012
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版 	Windows Server 2012 R2

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2008 x64、Windows Server 2008 x86、Windows Server 2012、および Windows Server 2012 R2 を総称して Windows と表記しています。

■ このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	説明
API	Application Programming Interface
DN	Distinguished Name
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
JavaVM	Java Virtual Machine
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
OS	Operating System
RAS	Reliability, Availability, Serviceability
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64

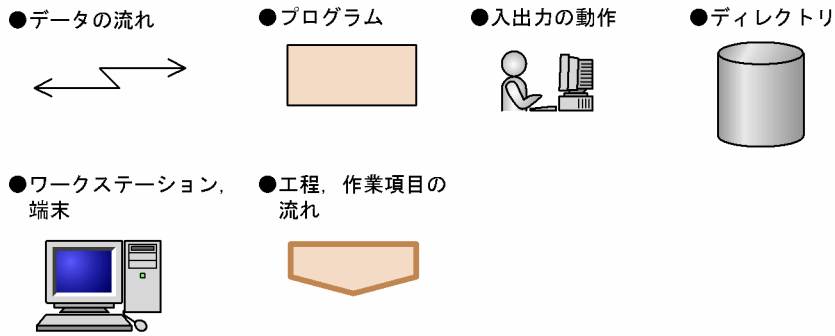
■ 操作方法の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して操作方法を説明しています。

記号	意味
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタンおよびキーボードのキーを示します。
{ }	ユーザが指定する内容を示します。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

個所（かしよ） 必須（ひっす）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

目次

1	Collaboration - Directory Access の概要	1
1.1	Collaboration - Directory Access とは	2
1.2	Collaboration - Directory Access のシステム構成	3
1.3	Collaboration - Directory Access の機能	4
1.3.1	ユーザ検索機能	4
1.3.2	組織ツリー表示機能	5
1.3.3	ディレクトリサーバ接続機能	5
1.3.4	LDAP スキーママッピング機能	5
1.3.5	コネクションプール機能	6
1.3.6	組織選択機能	6
2	Collaboration - Directory Access の環境設定	9
2.1	Collaboration - Directory Access の環境設定の流れ	10
2.2	パーソナライズ情報の見積もり	11
2.3	Collaboration - Directory Access の環境設定の準備	12
2.3.1	匿名バインドの設定	12
2.3.2	インデックスの設定	13
2.3.3	コネクションプールに関連する設定	13
2.3.4	言語タグの設定	14
2.4	プロパティファイルの設定	15
2.4.1	プロパティファイルの記述形式と格納先	17
2.4.2	プロパティファイルの初期設定	18
2.4.3	プロパティの詳細 (LDAP 設定)	19
2.4.4	プロパティの詳細 (ユーザオブジェクトのマッピング)	22
2.4.5	プロパティの詳細 (組織オブジェクトクラスのマッピング)	24
2.4.6	プロパティの詳細 (ログ情報)	25
2.4.7	プロパティの詳細 (GUI 設定)	26
2.4.8	プロパティの詳細 (タイムアウト設定)	30
2.4.9	プロパティの詳細 (兼任機能)	30
3	Collaboration - Directory Access の障害対策	33
3.1	Collaboration - Directory Access の障害対策の流れ	34
3.2	RAS 用 Conf ファイルの設定	35
3.3	トラブルシューティング	36

付録	39
付録 A 旧バージョンから移行する場合の作業	40
付録 B 旧バージョンとの機能の違い	41
付録 B.1 Collaboration - Directory Access 01-70 との違い	41
付録 B.2 Collaboration - Directory Access 01-32 との違い	41
付録 B.3 Collaboration - Directory Access 01-30 との違い	42
付録 B.4 Collaboration - Directory Access 01-20 との違い	42
付録 C 用語解説	44

索引	47
----	----

1

Collaboration - Directory Access の概要

この章では, Collaboration - Directory Access の概要を説明します。

1.1 Collaboration - Directory Access とは

Collaboration - Directory Access は、ポータル上でユーザ検索機能および組織ツリー表示機能を提供するポートレットです。Collaboration - Directory Access を使用すると、名前を指定してユーザを検索したり、組織ツリーを表示して各組織に所属するユーザを検索したりできます。検索と表示に必要な情報はディレクトリサーバから取得します。

Collaboration - Directory Access には、次の特長があります。

- エンドユーザが操作しやすい Web ベースの画面を提供します。詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。
- プロパティファイルにマッピングされた内容を基に、ディレクトリサーバにアクセスするので、さまざまな LDAP スキーマに柔軟に対応できます。
- コネクションプールによって、ディレクトリサーバとの接続と切断によるオーバーヘッドを回避できます。
- ディレクトリサーバから取得するエントリの最大数を指定できるので、コンピュータや通信回線の能力に応じた処理ができます。

1.2 Collaboration - Directory Access のシステム構成

Collaboration - Directory Access のシステム構成について説明します。

Collaboration - Directory Access の前提 OS および前提プログラムについては、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

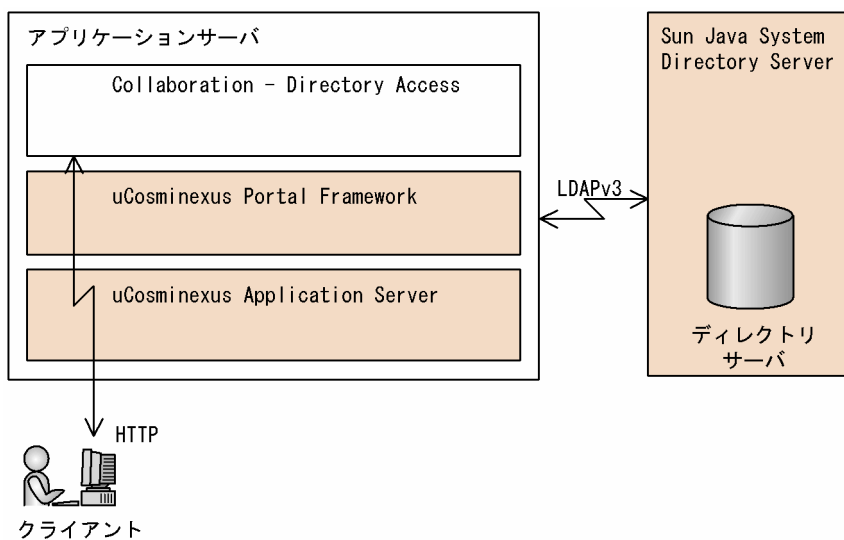
Collaboration - Directory Access の利用できる Web ブラウザについては、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

(1) システム構成例

Collaboration - Directory Access はアプリケーションサーバ上で動作し、ディレクトリサーバに LDAPv3 プロトコルでアクセスします。

システム構成例を次に示します。

図 1-1 システム構成



アプリケーションサーバが動作するコンピュータとディレクトリサーバが動作するコンピュータは、異なるコンピュータに分けることができます。

1.3 Collaboration - Directory Access の機能

Collaboration - Directory Access の機能について説明します。

1.3.1 ユーザ検索機能

[ユーザ検索] ポートレットのユーザ検索画面を使用して、ユーザを検索できます。[ユーザを探す] 画面(詳細検索)では、検索条件としてユーザの名前や役職などを指定できます。また、[ユーザを探す] 画面(簡易検索)では、キーワードを指定して検索できます。

詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

[ユーザ検索] ポートレットのユーザ検索画面を次に示します。

図 1-2 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)

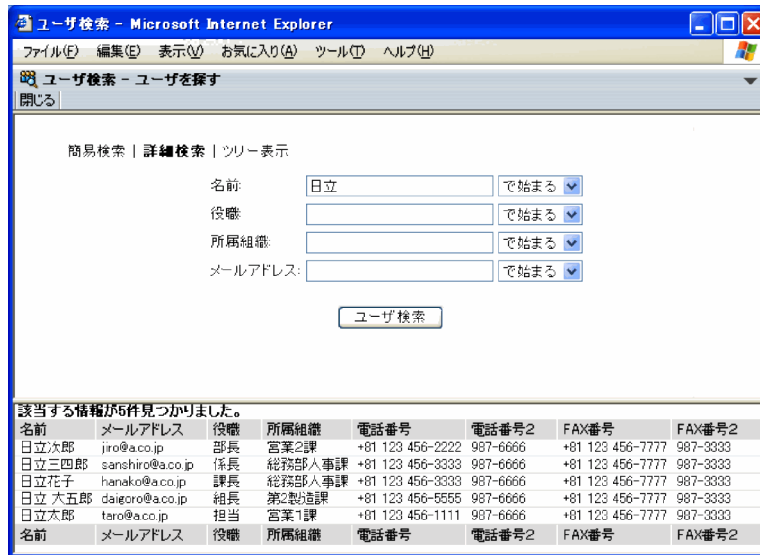
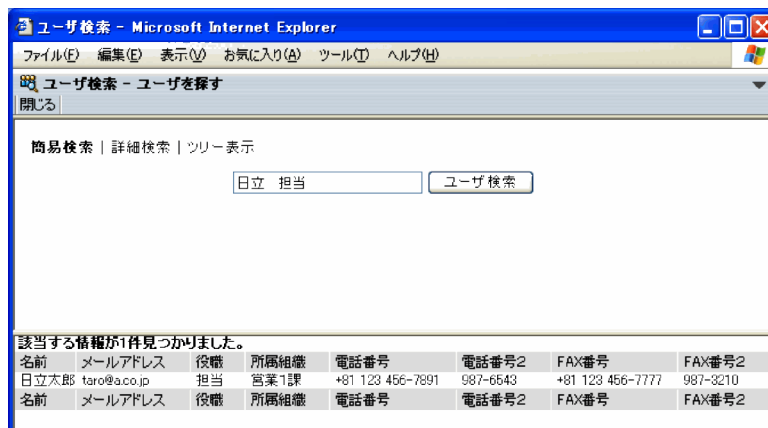


図 1-3 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)



1.3.2 組織ツリー表示機能

[ユーザ検索] ポートレットの [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) を使用して、どのような組織があり、どのユーザが所属しているか調べることができます。詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

[ユーザ検索] ポートレットの [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) を次に示します。

図 1-4 [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示)



1.3.3 ディレクトリサーバ接続機能

Collaboration - Directory Access は匿名バインドによってディレクトリサーバに接続します。
hptl_clb_cum_ldapurl1 プロパティにディレクトリサーバの URL を指定してください。

1.3.4 LDAP スキーママッピング機能

アクセスする LDAP スキーマの違いに対応するため、Collaboration - Directory Access は LDAP スキーマの各項目をプロパティにマッピングします。

LDAP スキーマのマッピングを次に示します。

表 1-1 LDAP スキーマのマッピング

項番	項目	マッピングするプロパティ
1	ベース DN	ユーザのエントリのベース DN を hptl_clb_cum_userBaseDn プロパティに指定します。 組織のエントリのベース DN を hptl_clb_cum_orgBaseDn プロパティに指定します。 (指定例) hptl_clb_cum_userBaseDn = ou=people, o=hitachi, c=jp hptl_clb_cum_orgBaseDn = ou=deptinfo, o=hitachi, c=jp
2	検索用スコープ	ユーザのエントリを検索するためのスコープを hptl_clb_cum_userScope プロパティに指定します。 なお、組織の場合はスキーマ構造によってスコープが決まるため、スコープを指定する必要がありません。

項番	項目	マッピングするプロパティ
2	検索用スコープ	(指定例) hptl_clb_cum_userScope = onelevel
3	オブジェクトクラスのマッピング	ユーザを示すオブジェクトクラスを hptl_clb_cum_userObjectclass プロパティに指定します。 組織を示すオブジェクトクラスを hptl_clb_cum_orgObjectclass プロパティに指定します。 (指定例) hptl_clb_cum_userObjectclass = inetOrgPerson hptl_clb_cum_orgObjectclass = organizationalUnit
4	各属性のマッピング	ユーザのエントリでユーザ ID に相当する属性を hptl_clb_cum_uid プロパティに指定します。 メールアドレスに相当する属性を hptl_clb_cum_eMail プロパティに指定します。 ほかの属性に相当するプロパティもあります。 (指定例) hptl_clb_cum_uid = uid hptl_clb_cum_eMail = email

1.3.5 コネクションプール機能

Collaboration - Directory Access はディレクトリサーバへのアクセス性能向上のためにコネクションプール機能を提供します。コネクションプールを使用するとディレクトリサーバとの接続と切断によるオーバーヘッドを回避できます。

コネクションが不足したときに、コネクションプールにコネクションオブジェクトが一つ生成されます。生成するコネクションオブジェクトの数は、hptl_clb_cum_pool プロパティに指定できます。コネクションオブジェクトの生成に失敗した場合、Collaboration - Directory Access は 100 ミリ秒固定間隔でリトライします。hptl_clb_cum_retry_connect_count プロパティに指定した回数のリトライが発生します。

ディレクトリサーバにアクセスできなくなったとき、コネクションプールは破棄されます。

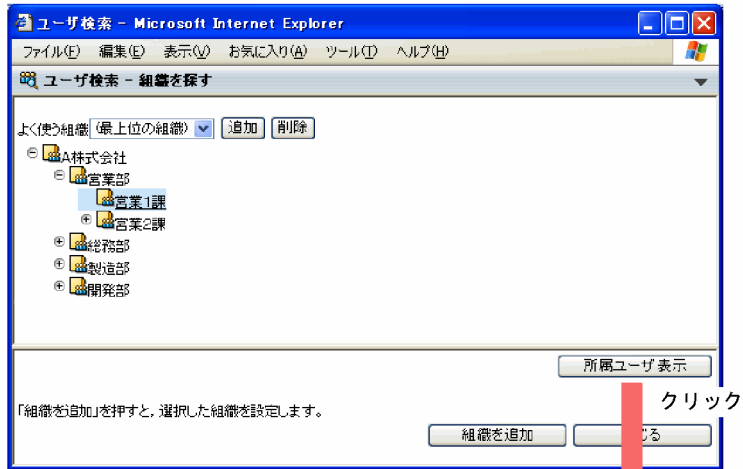
1.3.6 組織選択機能

ファイル共有や電子掲示板を使用しているときに、Collaboration - Directory Access の [組織を探す] 画面および [所属ユーザ表示] 画面を呼び出すことができます。これらの画面から、組織や組織に所属するユーザの情報を参照し、必要な組織を選択できます。

[組織を探す] 画面および [所属ユーザ表示] 画面を次に示します。

図 1-5 「組織を探す」画面および「所属ユーザ表示」画面

● 「組織を探す」画面



● 「所属ユーザ表示」画面



画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

2

Collaboration - Directory Access の環境設定

この章では、Collaboration - Directory Access の環境設定を説明します。

2.1 Collaboration - Directory Access の環境設定の流れ

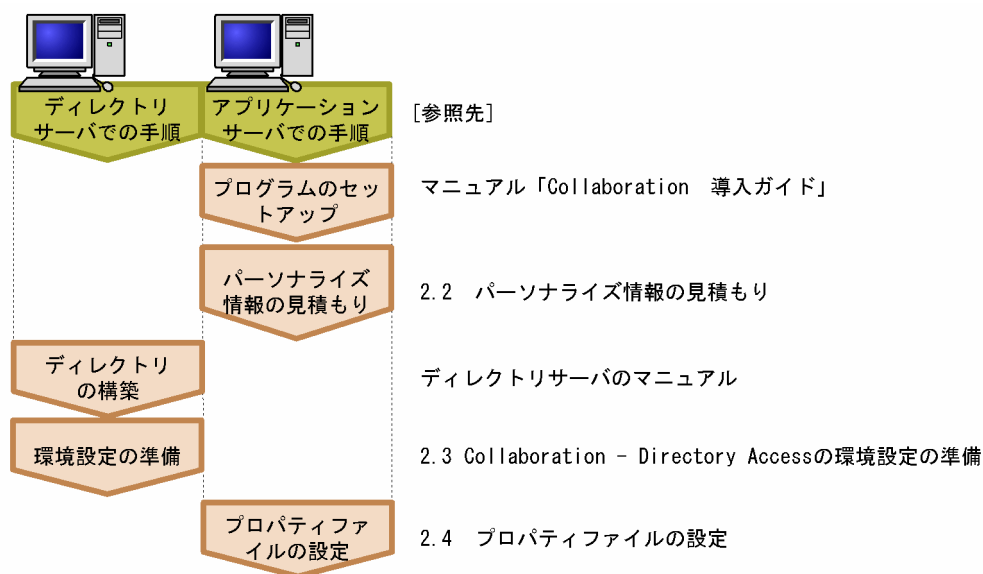
Collaboration - Directory Access の環境設定の流れを次に示します。

ディレクトリサーバ側では、環境設定の準備として Collaboration - Directory Access でアクセスするためのチューニングをしてください。

アプリケーションサーバ側では、次の作業を実施してください。

- パーソナライズ情報の見積もり
- プロパティファイルの設定

図 2-1 Collaboration - Directory Access の環境設定の流れ



2.2 パーソナライズ情報の見積もり

Collaboration - Directory Access は、「よく使う組織」に登録する組織をユーザ単位でカスタマイズできます。Collaboration - Directory Access では、カスタマイズされた結果は、パーソナライズ情報として uCosminexus Portal Framework に登録されます。

Collaboration - Directory Access が、カスタマイズで必要とするデータベース容量の計算式を次に示します。

ユーザ数 × {(平均 DN 長 + 平均組織名長 + 平均英語組織名長 + 149) × 平均登録組織数}

平均 DN 長、平均組織名長、平均英語組織名長、および平均登録組織数の単位はバイトです。なお、平均組織名長および平均英語組織名長のサイズは、UTF-8 のバイト数に換算してください。

パーソナライズ情報の設定方法の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

2.3 Collaboration - Directory Access の環境設定の準備

ディレクトリサーバをチューニングする際には、次に示す項目を確認してください。

2.3.1 匿名バインドの設定

Collaboration - Directory Access は匿名バインドによってディレクトリサーバにアクセスします。そのため、Collaboration - Directory Access が利用するエン트리と属性は、匿名バインドに対して検索および読み取りアクセス権を設定する必要があります。

アクセス権を設定するエン트리と属性を次に示します。

- エントリ
 - hptl_clb_cum_userBaseDn プロパティに指定するエン트리、および検索対象のユーザエン트리
 - hptl_clb_cum_orgBaseDn プロパティに指定するエン트리、および検索対象のすべての組織エン트리

- 属性

次に示すプロパティで指定するすべての属性

- hptl_clb_cum_parentOrgAttr
- hptl_clb_cum_uid
- hptl_clb_cum_name
- hptl_clb_cum_nameEn
- hptl_clb_cum_org
- hptl_clb_cum_orgEn
- hptl_clb_cum_title
- hptl_clb_cum_titleEn
- hptl_clb_cum_eMail
- hptl_clb_cum_telNo
- hptl_clb_cum_faxNo
- hptl_clb_cum_extTelNo
- hptl_clb_cum_extFaxNo
- hptl_clb_cum_extTelNo2
- hptl_clb_cum_extTelNo3
- hptl_clb_cum_orgId
- hptl_clb_cum_orgName
- hptl_clb_cum_orgNameEn
- hptl_clb_cum_belongOrgDn
- hptl_clb_cum_user_in_main_post

2.3.2 インデックスの設定

Collaboration - Directory Access が検索に使用する属性には、等価インデックスおよび部分文字列インデックスを設定する必要があります。

インデックスは必ず設定してください。インデックスを設定しないと、検索結果が正しくならない場合があります。

次に示すプロパティで指定する属性にインデックスを設定してください。

表 2-1 インデックスを設定する属性のプロパティ

項番	プロパティ	等価インデックス	部分文字列インデックス
1	hptl_clb_cum_parentOrgAttr	○	—
2	hptl_clb_cum_uid	○	—
3	hptl_clb_cum_name	○	○
4	hptl_clb_cum_nameEn	○	○
5	hptl_clb_cum_org	○	○
6	hptl_clb_cum_orgEn	○	○
7	hptl_clb_cum_title	○	○
8	hptl_clb_cum_titleEn	○	○
9	hptl_clb_cum_eMail	○	○
10	hptl_clb_cum_belongOrgDn	○	—
11	hptl_clb_cum_orgId	○	—
12	hptl_clb_cum_user_in_main_post	△	—

(凡例)

- ：設定が必要です。
- △：兼任機能を使用する場合は設定が必要です。
- ：設定不要です。

2.3.3 コネクションプールに関連する設定

Collaboration - Directory Access が提供するコネクションプールを使用する場合は、次に示す値にご注意ください。

- ディレクトリサーバにアクセスするスレッド数
コネクションプール数は、ディレクトリサーバにアクセスするスレッド数以上の値を指定する必要があります。スレッド数に対してコネクションプール数が不足する場合は、コネクションを得られないスレッドがディレクトリサーバにアクセスできずにエラーとなります。
- ディレクトリサーバの nsslapd-idletimeout パラメタ
nsslapd-idletimeout パラメタに 0 以外を指定した場合、原則としてコネクションプールは使用できません。nsslapd-idletimeout パラメタに指定された時間内に使用されないコネクションをディレクトリサーバが自動的に破棄するためです。

ただし、Collaboration - Directory Access のコネクションプールはプールしているコネクションを順番に使用するため、`nsslapd-idletimeout` パラメタに設定した時間内にコネクションプール数より十分大きなアクセス数がある場合は使用できません。

- ディレクトリサーバのコネクションリソース

コネクションプールを使用すると、生成するコネクションオブジェクトの数だけディレクトリサーバのコネクションリソースが消費されます。ディレクトリサーバ全体のコネクションリソース数、および他アプリケーションのLDAP アクセス数などとのバランスを考慮してください。

2.3.4 言語タグの設定

プロパティに言語タグなしの属性を指定する場合、検索実行時には言語タグなしの属性と言語タグ付きの属性の両方が検索の対象となります。

例えば、プロパティに次のとおり指定します。

```
hptl_clb_cum_name = cn;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_nameEn = cn
```

このとき、次に示すエントリがあるとします。

- `cn;lang-ja-jp` が "日立太郎(uid=1111)"
- `cn` が "Taro Hitachi"

ここで「名前（英語）に"1111"を含む」という条件で検索を実行すると、名前（英語）に"1111"という文字列を含まないのに、このエントリが検索結果に出力されます。

これを回避するには、該当する属性に言語タグを付け、プロパティに言語タグ付きの属性を指定してください。ここでは、プロパティに次のとおり指定します。

```
hptl_clb_cum_name = cn;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_nameEn = cn;lang-en-us
```

2.4 プロパティファイルの設定

Collaboration - Directory Access の動作はプロパティファイルに定義します。プロパティファイルには、Collaboration - Directory Access 固有のプロパティファイル (hptl_clb_cum.properties) と共通プロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties) の二つがあります。

Collaboration - Directory Access が使用するプロパティは"hptl_clb_cum"で始まる固有プロパティ、および共通プロパティである hptl_clb_ccu_logPath プロパティです。ただし、hptl_clb_cum_logPath プロパティが指定されている場合は hptl_clb_cum_logPath プロパティが優先されます。

！ 注意事項

共通プロパティファイルに Collaboration - Directory Access 固有のプロパティを指定しないでください。指定した場合、どちらの設定が使用されるかわかりません。

プロパティの指定がない場合、またはプロパティがコメントである場合は、指定が省略されていると見なされます。

プロパティファイルは uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中にプロパティファイルを変更した場合は、その内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

プロパティファイルに設定する Collaboration - Directory Access の固有プロパティを次に示します。

表 2-2 プロパティ項目の一覧

項番	区分	プロパティ名	設定内容	必須
1	LDAP 設定	hptl_clb_cum_ldapurl1	ディレクトリサーバの URL	○
2		hptl_clb_cum_pool	コネクションプール数	—
3		hptl_clb_cum_retry_connect_count	接続リトライ数	○
4		hptl_clb_cum_sizelimit	組織ツリー検索結果の最大数	○
5		hptl_clb_cum_usersearch_sizelimit	ユーザ検索結果の最大数	—
6		hptl_clb_cum_request_user_size	ユーザ情報の取得数	—
7		hptl_clb_cum_request_org_size	組織情報の取得数	—
8		hptl_clb_cum_userBaseDn	ユーザ検索用ベース DN	○
9		hptl_clb_cum_userScope	ユーザ検索用スコープ	—
10		hptl_clb_cum_orgBaseDn	組織検索用ベース DN	○
11		hptl_clb_cum_orgSchema	組織スキーマ構造	○
12		hptl_clb_cum_parentOrgAttr	上位組織を示す属性名	○
13		hptl_clb_cum_root_org_dn	最上位組織の DN	○
14		hptl_clb_cum_search_mode	検索対象	—
15	ユーザオブジェクトクラ	hptl_clb_cum_userObjectclass	ユーザを示すオブジェクトクラス	○
16		hptl_clb_cum_uid	ユーザ ID の属性名	○

項番	区分	プロパティ名	設定内容	必須
17	スのマッピング	hptl_clb_cum_name	名前の属性名	○
18		hptl_clb_cum_nameEn	名前（英語）の属性名	○
19		hptl_clb_cum_org	所属組織の属性名	－
20		hptl_clb_cum_orgEn	英語所属組織の属性名	－
21		hptl_clb_cum_title	役職の属性名	－
22		hptl_clb_cum_titleEn	英語役職の属性名	－
23		hptl_clb_cum_titleOrder	役職順位の属性名	△
24		hptl_clb_cum_eMail	メールアドレスの属性名	○
25		hptl_clb_cum_telNo	電話番号の属性名	－
26		hptl_clb_cum_faxNo	FAX 番号の属性名	－
27		hptl_clb_cum_extTelNo	電話番号 2 の属性名	－
28		hptl_clb_cum_extFaxNo	FAX 番号 2 の属性名	－
29		hptl_clb_cum_extTelNo2	電話番号 3 の属性名	－
30		hptl_clb_cum_extTelNo3	電話番号 4 の属性名	－
31		hptl_clb_cum_belongOrgDn	所属組織の DN の属性名	○
32	組織オブジェクトクラスのマッピング	hptl_clb_cum_orgObjectclass	組織を示すオブジェクトクラス	○
33		hptl_clb_cum_orgId	組織 ID を表す属性名	○
34		hptl_clb_cum_orgName	組織名の属性名	○
35		hptl_clb_cum_orgNameEn	英語組織名の属性名	○
36	ログ情報	hptl_clb_cum_logPath	ログファイル出力ディレクトリ名	－
37		hptl_clb_cum_logLevel	ログレベル	－
38		hptl_clb_cum_logFileNum	ログファイル面数	－
39		hptl_clb_cum_logfileSize	ログファイルサイズ	－
40		hptl_clb_cum_command_logFileNum	ログファイル面数（コマンド用）	－
41		hptl_clb_cum_command_logFileSize	ログファイルサイズ（コマンド用）	－
42	GUI 設定	hptl_clb_cum_defScreen	初期画面設定	－
43		hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg	【ユーザを探す】画面（詳細検索）に【名前（英語）】テキストボックスを表示するかどうか	－
44		hptl_clb_cum_search_key_items	【ユーザを探す】画面（簡易検索）で指定できるキーワード数	－
45		hptl_clb_cum_orgIdSortFlg	組織 ID で組織ツリーをソートするかどうか	－

項番	区分	プロパティ名	設定内容	必須	
46	GUI 設定	hptl_clb_cum_titleOrderFlg	役職順位でユーザー一覧をソートするかどうか	—	
47		hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post	役職順位でユーザー一覧をソートした場合の兼任ユーザの表示位置	—	
48		hptl_clb_cum_indicate_items	ユーザー一覧表示領域の表示項目	—	
49		hptl_clb_cum_indicate_userSpec_items	[ユーザ詳細] 画面の表示項目と表示順序	—	
50		hptl_clb_cum_userSpecWidth	[ユーザ詳細] 画面の幅	—	
51		hptl_clb_cum_userSpecHeight	[ユーザ詳細] 画面の高さ	—	
52		hptl_clb_cum_mainWindowWidth	Collaboration - Directory Access メイン画面の幅	—	
53		hptl_clb_cum_mainWindowHeight	Collaboration - Directory Access メイン画面の高さ	—	
54		hptl_clb_cum_orgWindowWidth	[組織を探す] 画面の幅	—	
55		hptl_clb_cum_orgWindowHeight	[組織を探す] 画面の高さ	—	
56		hptl_clb_cum_orgUserListWidth	[所属ユーザ表示] 画面の幅	—	
57		hptl_clb_cum_orgUserListHeight	[所属ユーザ表示] 画面の高さ	—	
58		タイムアウト設定	hptl_clb_cum_request_time_out	ディレクトリサーバのタイムアウト時間	—
59			hptl_clb_cum_socket_time_out	ソケットのタイムアウト時間	—
60	兼任機能	hptl_clb_cum_user_in_additional_post	兼任機能を使用するかどうか	—	
61		hptl_clb_cum_user_in_main_post	主体ユーザのユーザ ID を表す属性名	△	
62		hptl_clb_cum_email_for_additional_post	兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうか	—	
63		hptl_clb_cum_show_in_additional_post	ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうか	—	

(凡例)

- ：該当します。
- △：条件によっては該当します。
- ：該当しません。

2.4.1 プロパティファイルの記述形式と格納先

プロパティファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

(1) 記述形式

キー名称 = 値

- 改行までが値になります。
- #で始まる行はコメントと見なされます。
- 値の後ろには、空白やコメントなどの文字列は追加できません。追加した場合、不正な値と解釈されます。

[不正な値と解釈される例]

プロパティ名 = 値 #コメント

(2) 格納先

- Collaboration - Directory Access 固有プロパティファイル (hptl_clb_cum.properties)
{Collaboration Portalのインストールディレクトリ}¥clb_home¥conf
- 共通プロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties)
{Collaboration Portalのインストールディレクトリ}¥clb_home¥conf

2.4.2 プロパティファイルの初期設定

Collaboration - Directory Access が提供する固有プロパティファイルの初期設定内容を次に示します。

- Collaboration - Directory Access 固有プロパティファイル (hptl_clb_cum.properties)

```
# LDAP Settings
hptl_clb_cum_ldapurl1 = ldap://localhost:389
#hptl_clb_cum_pool = 0
hptl_clb_cum_retry_connect count = 10
hptl_clb_cum_sizelimit = 1000
hptl_clb_cum_usersearch_sizelimit = 50
hptl_clb_cum_request_user_size = 10
hptl_clb_cum_request_org_size = 10
#hptl_clb_cum_userBaseDn = ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
hptl_clb_cum_userScope = onelevel
#hptl_clb_cum_orgBaseDn = ou=department, o=HITACHI, c=JP
hptl_clb_cum_orgSchema = logical
#hptl_clb_cum_parentOrgAttr = hptlDepartmentDN
#hptl_clb_cum_root_org_dn = ou=LDAPTOP_CLBROOT, ou=department, o=HITACHI, c=JP
#hptl_clb_cum_search_mode = searchModeAll

# Mapping of a User Object Class
#hptl_clb_cum_userObjectclass = hptlUser
hptl_clb_cum_uid = uid
hptl_clb_cum_name = cn;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_nameEn = cn;lang-en-us
hptl_clb_cum_org = hptlDepartmentName;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_orgEn = hptlDepartmentName;lang-en-us
hptl_clb_cum_title = title;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_titleEn = title;lang-en-us
hptl_clb_cum_titleOrder = hptlTitleOrder
hptl_clb_cum_eMail = mail
hptl_clb_cum_telNo = telephoneNumber
hptl_clb_cum_faxNo = facsimileTelephoneNumber
#hptl_clb_cum_extTelNo = telephoneNumber;extension
#hptl_clb_cum_extFaxNo = facsimileTelephoneNumber;extension
#hptl_clb_cum_extTelNo2 = telephoneNumber;extension2
#hptl_clb_cum_extTelNo3 = telephoneNumber;extension3
#hptl_clb_cum_belongOrgDn = hptlDepartmentDN

# Mapping of an Organization Object Class
#hptl_clb_cum_orgObjectclass = hptlOrganizationalUnit
hptl_clb_cum_orgId = ou
hptl_clb_cum_orgName = hptlDepartmentName;lang-ja-jp
hptl_clb_cum_orgNameEn = hptlDepartmentName;lang-en-us

# Log Information
hptl_clb_cum_logLevel = 20
```

```

hptl_clb_cum_logFileNum = 16
hptl_clb_cum_logfileSize = 10485760
hptl_clb_cum_command_logFileNum = 8
hptl_clb_cum_command_logFileSize = 1048576

# GUI Settings
hptl_clb_cum_defScreen = simple
hptl_clb_cum_search_key_items = 3
#hptl_clb_cum_orgIdSortFlg = 0
hptl_clb_cum_titleOrderFlg = 0
hptl_clb_cum_indicate_items = name, eMail, title, org, telNo
hptl_clb_cum_indicate_userSpec_items =
name, org, title, eMail, telNo, extTelNo, extTelNo2, extTelNo3, faxNo, extFaxNo
#hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg = 0
#hptl_clb_cum_userSpecWidth = 400
#hptl_clb_cum_userSpecHeight = 300
#hptl_clb_cum_mainWindowWidth = 600
#hptl_clb_cum_mainWindowHeight = 450
#hptl_clb_cum_orgWindowWidth = 600
#hptl_clb_cum_orgWindowHeight = 400
#hptl_clb_cum_orgUserListWidth = 600
#hptl_clb_cum_orgUserListHeight = 400

# Timeout Settings
hptl_clb_cum_request_time_out = 0
hptl_clb_cum_socket_time_out = 300000

# Additional Post Settings
hptl_clb_cum_user_in_additional_post = none
#hptl_clb_cum_user_in_main_post = hptlActualUid
hptl_clb_cum_email_for_additional_post = same
hptl_clb_cum_show_in_additional_post = on
hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post = mix

```

2.4.3 プロパティの詳細 (LDAP 設定)

LDAP 設定の区分に属するプロパティについて説明します。

(1) ディレクトリサーバの URL (hptl_clb_cum_ldapurl1)

ディレクトリサーバに接続するための URL を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(2) コネクションプール数 (hptl_clb_cum_pool)

コネクションプールに生成するコネクションオブジェクトの数を指定します。値の範囲は、0~1,024 です。0 を設定した場合、コネクションプールは使用されません。

コネクションプールの機能は、「1.3.5 コネクションプール機能」を参照してください。

コネクションプール使用時はディレクトリサーバの設定に注意が必要です。詳細は、「2.3.3 コネクションプールに関連する設定」を参照してください。

値を指定しなかった場合、0 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(3) 接続リトライ数 (hptl_clb_cum_retry_connect_count)

ディレクトリサーバとの接続に失敗した場合のリトライ回数を指定します。値の範囲は、0~100 です。0 を指定した場合、リトライしません。

リトライ間隔は 100 ミリ秒固定です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(4) 組織ツリー検索結果の最大数 (hptl_clb_cum_sizelimit)

組織ツリー検索の結果として取得する、エントリの最大数を指定します。値の範囲は、1~5,000 です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(5) ユーザ検索結果の最大数 (hptl_clb_cum_usersearch_sizelimit)

ユーザ検索の結果として取得する、エントリの最大数を指定します。値の範囲は、1~1,000 です。

値を指定しなかった場合、50 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(6) ユーザ情報の取得数 (hptl_clb_cum_request_user_size)

Collaboration Portal が 1 回に取得するユーザ情報の数を指定します。

値の範囲は、1~5,000 です。

値を大きくすると、一度に大量のユーザ情報を送信するため、ディレクトリサーバの負荷が高くなります。ディレクトリサーバの負荷が高い場合は小さい値を設定するなど、環境に合わせて設定してください。

値を指定しなかった場合、10 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(7) 組織情報の取得数 (hptl_clb_cum_request_org_size)

Collaboration Portal が 1 回に取得する組織情報の数を指定します。

値の範囲は、1~5,000 です。

値を大きくすると、一度に大量の組織情報を送信するため、ディレクトリサーバの負荷が高くなります。ディレクトリサーバの負荷が高い場合は小さい値を設定するなど、環境に合わせて設定してください。

値を指定しなかった場合、10 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(8) ユーザ検索用ベース DN (hptl_clb_cum_userBaseDn)

ユーザ検索時に使用するベース DN を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、[ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) の組織検索だけ動作し、そのほかの機能は使用できません。

(9) ユーザ検索用スコープ (hptl_clb_cum_userScope)

ユーザ検索時に使用するスコープを指定します。

指定できる値

onelevel : ベース DN の 1 階層下のレベルだけを検索対象とします。

subtree : ベース DN とその配下のすべてのレベルを検索対象とします。

値を指定しなかった場合、onelevel が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(10) 組織検索用ベース DN (hptl_clb_cum_orgBaseDn)

組織検索時に使用するベース DN を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、組織ツリー表示機能はすべて使用できません。

(11) 組織スキーマ構造 (hptl_clb_cum_orgSchema)

組織ツリーを表現する組織スキーマ構造を指定します。

指定できる値

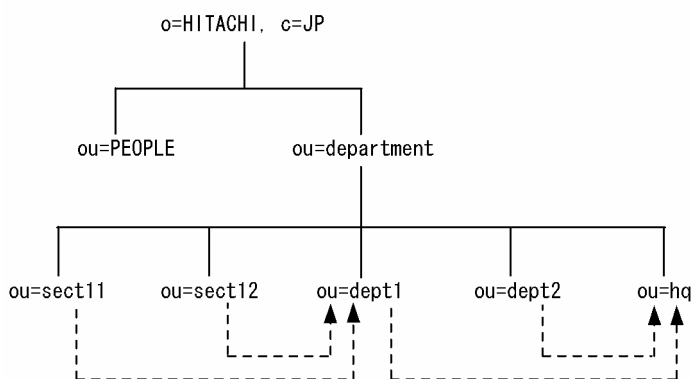
logical : すべての組織のエントリが、ベース DN から onelevel の位置になります。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

組織ツリーは、上位組織を示す属性によって、論理的に表されます。

logical の組織スキーマ構造の例を次に示します。

図 2-2 logical の組織スキーマ構造の例



(凡例)

---▶ : hptl_clb_cum_parentOrgAttr プロパティ指定値の属性による上位組織の指定

組織ツリーでは、二つの課 (sect11 および sect12) の上位組織は部 (dept1) です。二つの部 (dept1 および dept2) の上位組織は本社 (hq) です。

(12) 上位組織を示す属性名 (hptl_clb_cum_parentOrgAttr)

hptl_clb_cum_orgSchema プロパティに logical を指定した場合に、上位組織を一意に識別する属性名を指定します。logical を指定した場合は省略できません。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、[ユーザを探す] 画面（組織ツリー表示）での配下組織の検索はできません。

(13) 最上位組織の DN (hptl_clb_cum_root_org_dn)

最上位組織の DN を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、[ユーザを探す] 画面（組織ツリー表示）は正常に機能しません。[詳細検索] ボタンおよび [簡易検索] ボタン以外は動作しません。

(14) 検索対象 (hptl_clb_cum_search_mode)

検索対象を指定します。Collaboration - Directory Access 01-30 以降では、「searchModeAll」を指定することをお勧めします。

指定できる値

searchModeAll：英語および英語以外の言語を検索対象とします。

searchModeOff：コンテンツの表示言語を検索対象とします。

値を指定しなかった場合、searchModeAll が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

Collaboration - Directory Access 01-20 と同じ検索対象にする場合は、「searchModeOff」を指定してください。

2.4.4 プロパティの詳細（ユーザオブジェクトのマッピング）

ユーザオブジェクトのマッピングの区分に属するプロパティについて説明します。

(1) ユーザを示すオブジェクトクラス (hptl_clb_cum_userObjectclass)

ユーザを示すディレクトリサーバ上のオブジェクトクラスを指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、ユーザが検索されません。

(2) ユーザ ID の属性名 (hptl_clb_cum_uid)

ユーザのユーザ ID に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、uid をキーにしたユーザの検索はできません。

(3) 名前の属性名 (hptl_clb_cum_name)

ユーザの名前に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、名前をキーにした検索および表示ができません。

(4) 名前 (英語) の属性名 (hptl_clb_cum_nameEn)

ユーザの名前 (英語) に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、名前 (英語) をキーにした検索および表示ができません。

(5) 所属組織の属性名 (hptl_clb_cum_org)

ユーザの所属組織に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、所属組織をキーにした検索および表示ができません。

(6) 英語所属組織の属性名 (hptl_clb_cum_orgEn)

ユーザの英語の所属組織に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、英語の所属組織をキーにした検索および表示ができません。

(7) 役職の属性名 (hptl_clb_cum_title)

ユーザの役職に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、役職をキーにした検索および表示ができません。

(8) 英語役職の属性名 (hptl_clb_cum_titleEn)

ユーザの英語の役職に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、英語の役職をキーにした検索および表示ができません。

(9) 役職順位の属性名 (hptl_clb_cum_titleOrder)

役職順位に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、役職順位をキーにしたソートができません。

(10) メールアドレスの属性名 (hptl_clb_cum_eMail)

ユーザのメールアドレスに相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、メールアドレスをキーにした検索および表示ができません。

(11) 電話番号の属性名 (hptl_clb_cum_telNo)

ユーザの電話番号に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、電話番号の表示ができません。

(12) FAX 番号の属性名 (hptl_clb_cum_faxNo)

ユーザの FAX 番号に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、FAX 番号の表示ができません。

(13) 電話番号 2 の属性名 (hptl_clb_cum_extTelNo)

ユーザの電話番号 2 に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、電話番号 2 の表示ができません。

(14) FAX 番号 2 の属性名 (hptl_clb_cum_extFaxNo)

ユーザの FAX 番号 2 に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、FAX 番号 2 の表示ができません。

(15) 電話番号 3 の属性名 (hptl_clb_cum_extTelNo2)

ユーザの電話番号 3 に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、電話番号 3 の表示ができません。

(16) 電話番号 4 の属性名 (hptl_clb_cum_extTelNo3)

ユーザの電話番号 4 に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、電話番号 4 の表示ができません。

(17) 所属組織の DN の属性名 (hptl_clb_cum_belongOrgDn)

ユーザの所属組織の DN に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、組織ツリー表示からのユーザの検索および表示ができません。

2.4.5 プロパティの詳細 (組織オブジェクトクラスのマッピング)

組織オブジェクトクラスのマッピングの区分に属するプロパティについて説明します。

(1) 組織を示すオブジェクトクラス (hptl_clb_cum_orgObjectclass)

組織を示すディレクトリサーバ上のオブジェクトクラスを指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、組織ツリー表示ができません。

(2) 組織 ID を表す属性名 (hptl_clb_cum_orgId)

組織の組織 ID に相当する属性を指定します。組織 ID には、必ず一意に識別できる値を指定してください。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、組織 ID をキーにした組織の検索はできません。

(3) 組織名の属性名 (hptl_clb_cum_orgName)

組織名に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、英語以外のモードの組織ツリー表示で組織名が表示できません。

(4) 英語組織名の属性名 (hptl_clb_cum_orgNameEn)

英語の組織名に相当する属性名を指定します。

値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合、英語モードの組織ツリー表示で英語の組織名が表示できません。

2.4.6 プロパティの詳細 (ログ情報)

ログ情報の区分に属するプロパティについて説明します。

(1) ログファイル出力ディレクトリ名 (hptl_clb_cum_logPath)

ログファイルの出力ディレクトリを指定します。指定する場合は、区切り文字 (記号) に、「**¥**」または「/」を使用してください。日本語を含むディレクトリは指定できません。

指定がない場合は、共通プロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties) の hptl_clb_ccu_logPath プロパティに指定されたディレクトリにログファイルが出力されます。それ以外のディレクトリに出力したい場合に hptl_clb_cum_logPath プロパティを指定してください。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

hptl_clb_ccu_logPath プロパティおよび hptl_clb_cum_logPath プロパティの両方に値を指定しなかった場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(2) ログレベル (hptl_clb_cum_logLevel)

出力するログレベルを指定します。10、20、30、または 40 を指定します。

ログレベルは、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、20 が設定されます。

(3) ログファイル面数 (hptl_clb_cum_logFileNum)

ログファイルの面数を指定します。値の範囲は、1~16 です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、16 が設定されます。

(4) ログファイルサイズ (hptl_clb_cum_logfileSize)

ログファイル一つ当たりのサイズを指定します。値の範囲は、4,096~2,147,483,647 (単位: バイト) です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、10,485,760 (10MB) が設定されます。

(5) ログファイル面数 (コマンド用) (hptl_clb_cum_command_logFileNum)

Collaboration のコマンドが使用するログファイルの面数を指定します。値の範囲は、1~16 です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、8 が設定されます。

(6) ログファイルサイズ (コマンド用) (hptl_clb_cum_command_logFileSize)

Collaboration のコマンドが使用するログファイル一つ当たりのサイズを指定します。値の範囲は、4,096~2,147,483,647 (単位: バイト) です。

値を指定しなかった場合または不正な値を指定した場合、1,048,576 (1MB) が設定されます。

2.4.7 プロパティの詳細 (GUI 設定)

GUI 設定の区分に属するプロパティについて説明します。

(1) 初期画面設定 (hptl_clb_cum_defScreen)

Collaboration - Directory Access を起動したときに初期表示される画面を指定します。

指定できる値

simple : [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) が表示されます。

user : [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) が表示されます。

tree : [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) が表示されます。

値を指定しなかった場合、simple が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(2) [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) に [名前 (英語)] テキストボックスを表示するかどうか (hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg)

[ユーザを探す] 画面 (詳細検索) に [名前 (英語)] テキストボックスを表示するかどうかを指定します。

Collaboration - Directory Access 01-20 と同じ表示内容にする場合は、「1」を指定してください。

指定できる値

0 : [名前 (英語)] テキストボックスを表示しません。

1 : メニューの表示言語が英語以外の場合、[名前 (英語)] テキストボックスを表示します。メニューの表示言語が英語の場合は、[名前 (英語)] テキストボックスを表示しません。

値を指定しなかった場合、0 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(3) [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) で指定できるキーワード数 (hptl_clb_cum_search_key_items)

[ユーザを探す] 画面 (簡易検索) で指定できるキーワード数を指定します。値の範囲は、1~16 です。

値を指定しなかった場合、3 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(4) 組織 ID で組織ツリーをソートするかどうか (hptl_clb_cum_orgIdSortFlg)

[ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) および [組織を探す] 画面の組織ツリーを組織 ID でソートするかどうかを指定します。

指定できる値

- 1 : hptl_clb_cum_orgId で指定した組織 ID の文字コードの昇順でソートします。
- 0 : ソートしません。
- 1 : hptl_clb_cum_orgId で指定した組織 ID の文字コードの降順でソートします。

省略した場合, またはプロパティが存在しない場合は 0 が設定されます。

(5) 役職順位でユーザー一覧をソートするかどうか (hptl_clb_cum_titleOrderFlg)

ユーザー一覧表示領域に表示されるユーザー一覧を役職順位でソートするかどうかを指定します。

指定できる値

- 1 : hptl_clb_cum_titleOrder で指定した役職順位の文字コードの昇順でソートします。
- 0 : ソートしません。
- 1 : hptl_clb_cum_titleOrder で指定した役職順位の文字コードの降順でソートします。

省略した場合, またはプロパティが存在しない場合は 0 が設定されます。

不正な値を指定した場合, Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(6) 役職順位でユーザー一覧をソートした場合の兼任ユーザの表示位置 (hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post)

ユーザー一覧表示領域に表示されるユーザー一覧を役職順位でソートした場合, 兼任ユーザのソート結果の表示位置を指定します。

指定できる値

- bottom : 主体ユーザと兼任ユーザを区別してソートし, 主体ユーザのソート結果の下に, 兼任ユーザのソート結果を表示します。
- mix : 主体ユーザと兼任ユーザを区別しないでソートした結果を表示します。

省略した場合, またはプロパティが存在しない場合は bottom が設定されます。

不正な値を指定した場合, Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

なお, hptl_clb_cum_titleOrderFlg プロパティで指定した値が 0 の場合, hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post プロパティは無効になります。

また, hptl_clb_cum_email_for_additional_post プロパティで指定した値が same の場合, hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post プロパティで指定した値に関係なく, 主体ユーザと兼任ユーザを区別しないでソートした結果を表示します。

(7) ユーザー一覧表示領域の表示項目 (hptl_clb_cum_indicate_items)

ユーザー一覧表示領域に表示する項目および順序を指定します。

指定できる値

name : 名前, 名前 (英語)

name は必ず指定してください。

eMail : メールアドレス

title : 役職, 英語役職

org : 組織, 英語組織

telNo : 電話番号

extTelNo : 電話番号 2

faxNo : FAX 番号

extFaxNo : FAX 番号 2

コンマで区切ることで、複数の項目を設定できます。

省略した場合、またはプロパティが存在しない場合は、name, eMail, title, org, telNo が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(8) [ユーザ詳細] 画面の表示項目と表示順序 (hptl_clb_cum_indicate_userSpec_items)

[ユーザ詳細] 画面に表示する項目、および表示順序を指定します。

このプロパティで指定された項目のうち、ユーザオブジェクトのマッピングプロパティで設定されている属性だけが [ユーザ詳細] 画面に表示されるようになります。

指定できる値

name : 名前, 名前 (英語)

name は必ず指定してください。

メニューの表示言語が英語以外の場合は、名前および名前 (英語) が表示されます。メニューの表示言語が英語の場合は、名前 (英語) だけが表示されます。

org : 組織, 英語組織

title : 役職, 英語役職

eMail : メールアドレス

telNo : 電話番号

extTelNo : 電話番号 2

extTelNo2 : 電話番号 3

extTelNo3 : 電話番号 4

faxNo : FAX 番号

extFaxNo : FAX 番号 2

コンマで区切ることで、複数の項目を設定できます。

省略した場合、またはプロパティが存在しない場合は、name, org, title, eMail, telNo, extTelNo, extTelNo2, extTelNo3, faxNo, extFaxNo が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(9) [ユーザ詳細] 画面の幅 (hptl_clb_cum_userSpecWidth)

[ユーザ詳細] 画面の幅を指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位:ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、400 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(10) [ユーザ詳細] 画面の高さ (hptl_clb_cum_userSpecHeight)

[ユーザ詳細] 画面の高さを指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、300 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(11) Collaboration - Directory Access メイン画面の幅 (hptl_clb_cum_mainWindowWidth)

Collaboration - Directory Access のメイン画面の幅を指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、600 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(12) Collaboration - Directory Access メイン画面の高さ (hptl_clb_cum_mainWindowHeight)

Collaboration - Directory Access のメイン画面の高さを指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、450 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(13) [組織を探す] 画面の幅 (hptl_clb_cum_orgWindowWidth)

[組織を探す] 画面の幅を指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、600 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(14) [組織を探す] 画面の高さ (hptl_clb_cum_orgWindowHeight)

[組織を探す] 画面の高さを指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、400 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(15) [所属ユーザ表示] 画面の幅 (hptl_clb_cum_orgUserListWidth)

[所属ユーザ表示] 画面の幅を指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、600 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(16) [所属ユーザ表示] 画面の高さ (hptl_clb_cum_orgUserListHeight)

[所属ユーザ表示] 画面の高さを指定します。値の範囲は、1~2,147,483,647 (単位：ピクセル) です。

値を指定しなかった場合、400 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

2.4.8 プロパティの詳細 (タイムアウト設定)

タイムアウト設定の区分に属するプロパティについて説明します。

(1) ディレクトリサーバのタイムアウト時間 (hptl_clb_cum_request_time_out)

ディレクトリサーバのタイムアウト時間を指定します。値の範囲は、0~2,147,483,647 (単位：ミリ秒) です。

値を指定しなかった場合、0 が設定されます。

値を指定しなかった場合または0を指定した場合は、ディレクトリサーバの設定が使用されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

(2) ソケットのタイムアウト時間 (hptl_clb_cum_socket_time_out)

ソケットのタイムアウト時間を指定します。値の範囲は、0~2,147,483,647 (単位：ミリ秒) です。

値を指定しなかった場合、300,000 が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

2.4.9 プロパティの詳細 (兼任機能)

兼任機能の区分に属するプロパティについて説明します。

兼任機能の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(1) 兼任機能を使用するかどうか (hptl_clb_cum_user_in_additional_post)

兼任機能を使用するかどうかを指定します。

指定できる値

none：兼任機能を使用しません。

link：兼任機能を使用します。

値を指定しなかった場合またはプロパティが存在しない場合は none が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

! 注意事項

link を指定して運用を開始した場合は、運用中に値を none に変更しないでください。

(2) 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 (hptl_clb_cum_user_in_main_post)

兼任ユーザに対応する主体ユーザのユーザ ID を表す属性名を指定します。
hptl_clb_cum_user_in_additional_post に link を指定した場合は必ず指定してください。

ここで指定した属性名のエントリに格納されている値が、兼任ユーザに対応する主体ユーザのユーザ ID になります。

値を指定しなかった場合またはプロパティが存在しない場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

不正な値を指定した場合は兼任機能を使用できなくなるため、すべてのユーザを主体ユーザと見なします。

hptl_clb_cum_show_in_additional_post の値が off (兼任ユーザを表示しない) の場合の前提条件を示します。

前提条件

主体ユーザの hptl_clb_cum_user_in_main_post プロパティで指定した属性名に、値が設定されていないこと。

ディレクトリサーバにユーザ情報を登録する運用方法として、次の 2 通りがあります。

1. Groupmax Collaboration - Directory Converter を利用するときは、前提条件を満たしています。
2. Groupmax Collaboration - Directory Converter を利用しないときは、前提条件に従った設定を行ってください。

Groupmax Collaboration - Directory Converter の使用方法については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(3) 兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうか (hptl_clb_cum_email_for_additional_post)

兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうかを指定します。

指定できる値

same : 兼任ユーザの E-mail アドレスを使用します。same を指定する場合は、必ず兼任ユーザと主体ユーザの E-mail アドレスの属性名に同じ値を指定してください。

none : 兼任ユーザの E-mail アドレスとして、主体ユーザの E-mail アドレスを使用します。兼任ユーザが E-mail アドレスを持たない場合に指定してください。

hptl_clb_cum_user_in_additional_post に link を指定した場合は必ず指定してください。

値を指定しなかった場合またはプロパティが存在しない場合は same が設定されます。

不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

! 注意事項

none を指定すると、兼任ユーザのユーザ ID を基に主体ユーザの E-mail アドレスを取得するため、ディレクトリサーバの性能が劣化します。このため、兼任ユーザと主体ユーザの E-mail アドレスを使い分ける必要がある場合以外は same を指定してください。

(4) ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうか (hptl_clb_cum_show_in_additional_post)

ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうかを指定します。

指定できる値

- on：兼任ユーザを表示します。
- off：兼任ユーザを表示しません。

hptl_clb_cum_user_in_additional_post に link を指定した場合に、この設定が有効になります。

値を指定しなかった場合またはプロパティが存在しない場合は、on が設定されます。不正な値を指定した場合、Collaboration - Directory Access のすべての機能を使用できません。

指定した値が off (兼任ユーザを表示しません) の場合は、「hptl_clb_cum_user_in_main_post」の「前提条件」を参照してください。

値に off (兼任ユーザを表示しません) を指定することで、ユーザ検索の結果の一覧にアクセス権限設定用の組織に登録された兼任ユーザが表示されなくなります。ツリーから特定の組織(アクセス権限設定用の組織を含む)を指定したときに表示されるユーザー一覧や、ユーザを指定したときに表示されるユーザ詳細では、実際の登録内容を確認できるように、兼任ユーザの情報も表示します。兼任ユーザの表示/非表示の一覧を次の表に示します。

表 2-3 【ユーザ検索】ポートレットでの兼任ユーザの表示/非表示の分類
(hptl_clb_cum_user_in_additional_post の設定値が「link」の場合)

hptl_clb_cum_show_in_additional_post の設定値	兼任ユーザの表示/非表示	対象画面	兼任ユーザの表示の範囲
on (兼任ユーザを表示します)	表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) • [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) • [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) • [所属ユーザ表示] 画面 • [ユーザ詳細] 画面 	兼任ユーザを含む登録情報を表示します。
off (兼任ユーザを表示しません)	表示しません。	<ul style="list-style-type: none"> • [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) • [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) 	兼任ユーザは表示しません。
	表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) • [所属ユーザ表示] 画面 • [ユーザ詳細] 画面 	兼任ユーザを含む登録情報を表示します。

3

Collaboration - Directory Access の障害対策

この章では、Collaboration - Directory Access の障害対策を説明します。

3.1 Collaboration - Directory Access の障害対策の流れ

Collaboration - Directory Access の障害時には、次の障害情報が出力されます。メッセージ ID を基にマニュアルを参照し、対策してください。

- エンドユーザの Web ブラウザに表示されるメッセージ
表示されるメッセージは、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。
- ログファイルに出力されるメッセージ
ログファイルを RAS 収集機能によって収集し、障害要因を調査して対策します。RAS 収集機能は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。
RAS 収集機能を使用するには RAS 用 Conf ファイルを設定する必要があります。設定方法は、「3.2 RAS 用 Conf ファイルの設定」を参照してください。

3.2 RAS 用 Conf ファイルの設定

Collaboration - Directory Access は RAS 用 Conf ファイル（{Collaboration Portal インストールディレクトリ}¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cum_ras.conf）を提供します。RAS 用 Conf ファイルは RAS 収集の際に必要な定義ファイルです。障害を調査するために収集したいファイルのあるディレクトリまたはファイル名を記述します。

RAS 収集機能は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

Collaboration - Directory Access が提供する RAS 用 Conf ファイルの定義内容を次に示します。

```
# {Collaboration Portalインストールディレクトリ}¥clb_home¥conf※
```

注※

通常はログファイルディレクトリを指定する必要がありません。指定しない場合、共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）の hptl_clb_ccu_logPath プロパティに指定されたディレクトリのログが収集されます。

ただし、Collaboration - Directory Access 固有のプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の hptl_clb_cum_logPath プロパティに別のディレクトリを指定した場合はログファイルディレクトリを指定する必要があります。

3.3 トラブルシューティング

メッセージは出力されないが、動作や表示が正常ではないと考えられる現象について、考えられる原因と対策を次に示します。

表 3-1 トラブルシューティング

項番	現象	原因	対策
1	ユーザー一覧表示領域の各項目が表示されない。	<p>hptl_clb_cum_indicate_items プロパティに設定した項目と対応する、ユーザオブジェクトクラスのマッピングプロパティが設定されていないか不正です。</p> <p>hptl_clb_cum_indicate_items プロパティの設定を省略した場合、表示項目は name, eMail, title, org, telNo が設定されています。</p>	表示されない項目と対応するユーザオブジェクトクラスのマッピングプロパティを、正しく設定してください。
2	Collaboration のポータル画面を閉じたあとユーザ検索を実行できる。	Collaboration のポータル画面を [×] ボタンで閉じた場合はセッションが切れていないため、ユーザ検索を実行できます。	Collaboration を終了する場合は、Collaboration のポータル画面からログアウトしてください。
3	ユーザー一覧表示領域に、[ユーザ詳細] 画面へのアンカーがない。	名前がすべて空白 (全角, 半角とも) のユーザは、[ユーザ詳細] 画面へのアンカーが生成されません。また、名前の前後にある空白は、削除されてユーザー一覧表示領域に表示されません。	ディレクトリサーバのユーザの名前を、正しく設定してください。
4	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー一覧表示領域 hptl_clb_cum_usersearch_sizelimit プロパティに設定されている検索結果の最大数よりも小さい値であるが、検索上限数を超えた旨のメッセージが表示される。 [ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) hptl_clb_cum_sizelimit プロパティに設定されている検索結果の最大数よりも小さい組織数しか表示されない。 	ディレクトリサーバの「検索制限」の値で検索が打ち切られています。	ディレクトリサーバのインデックスの設定を見直してください。それでも解決しない場合は、ディレクトリサーバの「検索制限」の設定を見直してください。
5	[ユーザを探す] 画面 (組織ツリー表示) および [組織を探す] 画面で、組織ツリーが組織 ID の順で表示されていない。	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> hptl_clb_cum_orgIdSortFlg プロパティに -1 または 1 以外の値を設定している。 hptl_clb_cum_orgIdSortFlg プロパティの設定が省略されている。 hptl_clb_cum_orgIdSortFlg プロパティがない。 hptl_clb_cum_orgId プロパティの設定が不正である。 	<p>hptl_clb_cum_orgIdSortFlg プロパティの設定を見直してください。</p> <p>また、hptl_clb_cum_orgId プロパティに設定したマッピング属性が、組織 ID になっていることを確認してください。</p>

項番	現象	原因	対策
6	LDAP サーバにエントリを追加したが、追加したエントリが検索されない。	ディレクトリサーバのインデックスを設定したあとにエントリを追加していますが、インデックスを作成し直していません。	インデックスを作成し直してください。または、エントリをインポートし直してください。
7	「KDCD26001-W The root organization has not been reached.<付加情報>」のメッセージがログファイルに多数出力される。	兼任機能を使用する場合に、「KDCD26001-W The root organization has not been reached.<付加情報>」のメッセージがログファイルに多数出力されます。	Collaboration の動作上、問題ありません。対策は必要ありません。

付録

付録 A 旧バージョンから移行する場合の作業

Collaboration - Directory Access 01-20 以前のバージョンからリビジョンアップする場合、次に示すディレクトリは不要なため、削除してください。

`{Collaboration Portalインストールディレクトリ}¥clb_home¥message`

なお、Collaboration - Directory Access 01-30 からバージョンアップする場合に必要な作業はありません。

付録 B 旧バージョンとの機能の違い

付録 B.1 Collaboration - Directory Access 01-70 との違い

Collaboration - Directory Access 01-82 では、ユーザー一覧表示領域のユーザー一覧を役職順位でソートした場合、兼任ユーザのソート結果の表示位置を指定できるようになりました。

兼任ユーザのソート結果の表示位置を指定するには、次の設定をします。

- `hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post = mix` (または `bottom`)

プロパティの詳細は、次の個所を参照してください。

- 2.4.7(6) 役職順位でユーザー一覧をソートした場合の兼任ユーザの表示位置 (`hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post`)

このため、Collaboration - Directory Access 01-70 と Collaboration - Directory Access 01-82 とでは、次の点が異なります。

- 役職順位でユーザー一覧をソートした場合の兼任ユーザの表示位置の指定可否

Collaboration - Directory Access 01-70 以前のバージョンと同じ設定にする場合は、`hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post` プロパティの設定を変更します。

プロパティの設定を変更する方法の詳細は、「2.4.7(6) 役職順位でユーザー一覧をソートした場合の兼任ユーザの表示位置 (`hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post`)」を参照してください。

付録 B.2 Collaboration - Directory Access 01-32 との違い

Collaboration - Directory Access 01-70 では、[ユーザを探す] 画面 (簡易検索) および [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) でユーザー一覧表示領域に、兼任ユーザの表示/非表示ができるようになりました。

兼任ユーザを非表示にするには、次の設定をします。

- `hptl_clb_cum_show_in_additional_post =off`

プロパティの詳細は、次の個所を参照してください。

- 2.4.9(4) ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうか (`hptl_clb_cum_show_in_additional_post`)

このため、Collaboration - Directory Access 01-32 と Collaboration - Directory Access 01-70 とでは、次の点が異なります。

- ユーザー一覧表示領域に表示されるユーザ

Collaboration - Directory Access 01-32 以前のバージョンと同じ設定にする場合は、`hptl_clb_cum_show_in_additional_post` プロパティの設定を変更します。

プロパティの設定を変更する方法の詳細は、「2.4.9(4) ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうか (`hptl_clb_cum_show_in_additional_post`)」を参照してください。

付録 B.3 Collaboration - Directory Access 01-30 との違い

Collaboration - Directory Access 01-32 では、役職順位でのソート、および兼任ユーザ情報の検索ができるようになりました。

役職順位でソートされるようにする

ユーザー一覧表示領域の [役職] アンカーをクリックしたときに、役職順位でソートされるようにするには、次の設定をします。

- hptl_clb_cum_titleOrder = 役職順位の属性名
- hptl_clb_cum_titleOrderFlg = -1 (または 1)
- hptl_clb_cum_indicate_items = title

各プロパティの詳細は、それぞれ次の個所を参照してください。

- 2.4.4(9) 役職順位の属性名 (hptl_clb_cum_titleOrder)
- 2.4.7(5) 役職順位でユーザー一覧をソートするかどうか (hptl_clb_cum_titleOrderFlg)
- 2.4.7(7) ユーザー一覧表示領域の表示項目 (hptl_clb_cum_indicate_items)

兼任機能を使用する

兼任機能を使用するには、次の設定をします。

- hptl_clb_cum_user_in_additional_post = link
- hptl_clb_cum_user_in_main_post = 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名
- hptl_clb_cum_email_for_additional_post = same

各プロパティの詳細は、それぞれ次の個所を参照してください。

- 2.4.9(1) 兼任機能を使用するかどうか (hptl_clb_cum_user_in_additional_post)
- 2.4.9(2) 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 (hptl_clb_cum_user_in_main_post)
- 2.4.9(3) 兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうか (hptl_clb_cum_email_for_additional_post)

このため、Collaboration - Directory Access 01-30 と Collaboration - Directory Access 01-32 とでは、次の点が異なります。

- ユーザー一覧表示領域の [役職] アンカーをクリックしたときの動作
- [ユーザ詳細] 画面に表示されるユーザの情報

Collaboration - Directory Access 01-30 以前のバージョンと同じ設定にする場合は、hptl_clb_cum_titleOrderFlg プロパティおよび hptl_clb_cum_user_in_additional_post プロパティの設定を変更します。

プロパティの設定を変更する方法の詳細は、「2.4.7(5) 役職順位でユーザー一覧をソートするかどうか (hptl_clb_cum_titleOrderFlg)」および「2.4.9(1) 兼任機能を使用するかどうか (hptl_clb_cum_user_in_additional_post)」をそれぞれ参照してください。

付録 B.4 Collaboration - Directory Access 01-20 との違い

Collaboration - Directory Access 01-30 以降のバージョンでは、日本語または英語以外の言語の情報も検索できるようになりました。

このため、Collaboration - Directory Access 01-20 と Collaboration - Directory Access 01-30 以降のバージョンとでは、次の点が異なります。

- ユーザを検索する際の検索対象
- [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) の [名前 (英語)] テキストボックスの表示有無

Collaboration - Directory Access 01-20 と同じ設定にする場合は、`hptl_clb_cum_search_mode` プロパティおよび `hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg` プロパティの設定を変更します。

プロパティの設定を変更する方法の詳細は、「2.4.3(14) 検索対象 (`hptl_clb_cum_search_mode`)」および「2.4.7(2) [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) に [名前 (英語)] テキストボックスを表示するかどうか (`hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg`)」をそれぞれ参照してください。

付録 C 用語解説

Collaboration - Directory Access の用語について説明します。

(英字)

DN (Distinguished Name)

ディレクトリサーバの各エントリを識別する情報のことです。ファイルシステム内のファイルパスのように扱われます。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

ディレクトリサーバにアクセスするための業界標準のプロトコルです。LDAP は、X.500 ディレクトリアクセスプロトコルより簡素化されていて、TCP/IP 上で動作します。

(ア行)

アクセス権限設定用の組織

掲示板などの組織単位でアクセス権を制御する機能を使用する場合に、実際の組織に関係なくアクセス権を制御するために作成された組織のことです。

インデックス

検索速度を向上させるために、ディレクトリサーバの内容への参照と検索文字列とを関連づける情報のことです。

エントリ

ディレクトリサーバでは、ツリー構造を構成する基本単位の情報のことです。一つ以上の属性とその値によって構成されます。

オブジェクトクラス

ディレクトリサーバでは、エントリを構成する属性の組み合わせを定義するオブジェクトクラスのことです。

(カ行)

兼任

一人のユーザが複数の組織に所属したり、役職に就いたりすることです。

本来所属している組織のユーザを「主体ユーザ」と呼びます。

それ以外の組織に所属しているユーザを「兼任ユーザ」と呼びます。

兼任機能

主体ユーザと兼任ユーザを関連づけて、一人のユーザと見なす機能です。

(サ行)

スキーマ

ディレクトリサーバでは、オブジェクトクラス、エントリ、属性およびツリー構造などの規則のことです。データがどのように格納されるかを定義します。

(タ行)

ディレクトリサーバ

LDAP によって、参照や更新ができるツリー構造を持つデータベースサーバのことです。

匿名バインド

認証なしでディレクトリサーバにバインド (ログイン) することです。

(ハ行)

パーソナライズ情報

Collaboration のポータル画面のレイアウトや設定内容など、ユーザがカスタマイズした情報です。

Collaboration - Directory Access の場合は、「よく使う組織」の内容がパーソナライズ情報に当たります。

索引

C

Collaboration - Directory Access とは 2
Collaboration - Directory Access の概要 1
Collaboration - Directory Access の環境設定 9
Collaboration - Directory Access の環境設定の準備 12
Collaboration - Directory Access の環境設定の流れ 10
Collaboration - Directory Access の機能 4
Collaboration - Directory Access のシステム構成 3
Collaboration - Directory Access の障害対策 33
Collaboration - Directory Access の障害対策の流れ 34

D

DN (Distinguished Name) 44

F

FAX 番号 2 の属性名 24
FAX 番号の属性名 24

H

hptl_clb_cum_belongOrgDn 24
hptl_clb_cum_command_logFileNum 26
hptl_clb_cum_command_logFileSize 26
hptl_clb_cum_defScreen 26
hptl_clb_cum_eMail 23
hptl_clb_cum_email_for_additional_post 31
hptl_clb_cum_extFaxNo 24
hptl_clb_cum_extTelNo 24
hptl_clb_cum_extTelNo2 24
hptl_clb_cum_extTelNo3 24
hptl_clb_cum_faxNo 24
hptl_clb_cum_indicate_items 27
hptl_clb_cum_indicate_userSpec_items 28
hptl_clb_cum_ldapurl1 19
hptl_clb_cum_logFileNum 25
hptl_clb_cum_logfileSize 25
hptl_clb_cum_logLevel 25
hptl_clb_cum_logPath 25
hptl_clb_cum_mainWindowHeight 29
hptl_clb_cum_mainWindowWidth 29
hptl_clb_cum_name 22
hptl_clb_cum_nameEn 23

hptl_clb_cum_org 23
hptl_clb_cum_orgBaseDn 21
hptl_clb_cum_orgEn 23
hptl_clb_cum_orgId 24
hptl_clb_cum_orgIdSortFlg 27
hptl_clb_cum_orgName 25
hptl_clb_cum_orgNameEn 25
hptl_clb_cum_orgObjectclass 24
hptl_clb_cum_orgSchema 21
hptl_clb_cum_orgUserListHeight 30
hptl_clb_cum_orgUserListWidth 29
hptl_clb_cum_orgWindowHeight 29
hptl_clb_cum_orgWindowWidth 29
hptl_clb_cum_parentOrgAttr 22
hptl_clb_cum_pool 19
hptl_clb_cum_request_org_size 20
hptl_clb_cum_request_time_out 30
hptl_clb_cum_request_user_size 20
hptl_clb_cum_retry_connect_count 19
hptl_clb_cum_root_org_dn 22
hptl_clb_cum_search_key_items 26
hptl_clb_cum_search_mode 22
hptl_clb_cum_show_in_additional_post 32
hptl_clb_cum_sizelimit 20
hptl_clb_cum_socket_time_out 30
hptl_clb_cum_telNo 23
hptl_clb_cum_title 23
hptl_clb_cum_titleEn 23
hptl_clb_cum_titleOrder 23
hptl_clb_cum_titleOrder_in_additional_post 27
hptl_clb_cum_titleOrderFlg 27
hptl_clb_cum_uid 22
hptl_clb_cum_user_in_additional_post 30
hptl_clb_cum_user_in_main_post 31
hptl_clb_cum_userBaseDn 20
hptl_clb_cum_userDetailSearch_nameEn_dispFlg 26
hptl_clb_cum_userObjectclass 22
hptl_clb_cum_userScope 21
hptl_clb_cum_usersearch_sizelimit 20
hptl_clb_cum_userSpecHeight 29
hptl_clb_cum_userSpecWidth 28

L

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 44

LDAPv3 3
LDAP スキーママッピング機能 5

N

nsslapd-idletimeout パラメタ 13

R

RAS 用 Conf ファイルの設定 35

あ

アクセス権 12
アクセス権限設定用の組織 44

い

インデックス 44
インデックスの設定 13

え

英語所属組織の属性名 23
英語組織名の属性名 25
英語役職の属性名 23
エントリ 44
エントリの最大数 20

お

オブジェクトクラス 44

き

キーワード数 26
旧バージョンから移行する場合の作業 40
旧バージョンとの機能の違い 41
共通プロパティファイル 18

け

言語タグの設定 14
兼任機能 [用語解説] 44
兼任機能を使用する 42
兼任機能を使用するかどうか 30
兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうか 31
兼任ユーザ [用語解説] 44
兼任 [用語解説] 44

こ

コネクションプール機能 6
コネクションプール数 19

コネクションリソース 14
固有プロパティファイル 18

さ

最上位組織の DN 22

し

システム構成例 3
主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 31
主体ユーザ [用語解説] 44
上位組織を示す属性名 22
初期画面設定 26
所属組織の DN の属性名 24
所属組織の属性名 23
[所属ユーザ表示] 画面 7
[所属ユーザ表示] 画面の高さ 30
[所属ユーザ表示] 画面の幅 29

す

スキーマ 44
スレッド数 13

せ

接続リトライ数 19

そ

ソケットのタイムアウト時間 30
組織 ID を表す属性名 24
組織検索用ベース DN 21
組織情報の取得数 20
組織スキーマ構造 21
組織選択機能 6
組織ツリー検索結果の最大数 20
組織ツリー表示機能 5
組織名の属性名 25
[組織を探す] 画面 7
[組織を探す] 画面の高さ 29
[組織を探す] 画面の幅 29
組織を示すオブジェクトクラス 24

た

タイムアウト時間 30

て

ディレクトリサーバ 2, 45
ディレクトリサーバ接続機能 5

ディレクトリサーバの URL 19
 ディレクトリサーバのタイムアウト時間 30
 電話番号 2 の属性名 24
 電話番号 3 の属性名 24
 電話番号 4 の属性名 24
 電話番号の属性名 23

と

等価インデックス 13
 匿名バインド 5, 45
 匿名バインドの設定 12
 トラブルシューティング 36

な

名前 (英語) の属性名 23
 名前の属性名 22

は

パーソナライズ情報 45
 パーソナライズ情報の見積もり 11

ふ

部分文字列インデックス 13
 プロパティの詳細 (GUI 設定) 26
 プロパティの詳細 (LDAP 設定) 19
 プロパティの詳細 (兼任機能) 30
 プロパティの詳細 (組織オブジェクトクラスのマッピング) 24
 プロパティの詳細 (タイムアウト設定) 30
 プロパティの詳細 (ユーザオブジェクトのマッピング) 22
 プロパティの詳細 (ログ情報) 25
 プロパティファイルの記述形式と格納先 17
 プロパティファイルの初期設定 18
 プロパティファイルの設定 15

ま

マッピング 5

め

メールアドレスの属性名 23

や

役職順位でソートされるようにする 42
 役職順位の属性名 23
 役職の属性名 23

ゆ

ユーザ ID の属性名 22
 ユーザ検索機能 4
 ユーザ検索結果の最大数 20
 ユーザ検索時に兼任ユーザを表示するかどうか 32
 ユーザ検索用スコープ 21
 ユーザ検索用ベース DN 20
 [ユーザ詳細] 画面の表示項目と表示順序 28
 ユーザ情報の取得数 20
 ユーザを示すオブジェクトクラス 22

よ

用語解説 44

り

リトライ 19

ろ

ログファイルサイズ 25
 ログファイルサイズ (コマンド用) 26
 ログファイル出力ディレクトリ名 25
 ログファイル面数 25
 ログファイル面数 (コマンド用) 26
 ログレベル 25